



チリリン・タイム 指導者解説



指導を受ける対象者の年齢、理解度などに
 応じた内容でご指導をお願いします。

○今月の指導内容

「自動車について知っておくべきことから」

○目標

自動車の特性を知り、注意しなければならない危険について理解させる。

○指導過程

段階	流れ	指導上の留意点
導入	質問	自動車の中にと仮定して、外の見えない部分はどのような場所か1～2人に質問する。
展開	自転車乗車時の心得	自動車は死角がありバックミラーであっても見えない部分が多いこと、自転車は自動車の運転者から見えにくい存在であることのほか、内輪差について理解させ、注意して走行することを指導する。
まとめ	自動車の特性を理解させ、危険を予測することを指導する。	

○指導内容・指導上の留意点

指導目標	指導対象	指導内容
自動車の特性を知り、注意しなければならない危険性を理解させる	小学生・中学生	<p>【自動車について知っておくべきことから】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動車は、カーブや交差点を右折、左折するときに、前輪が通ったところよりも、後輪が内側を通る「内輪差」があります。内輪差は、自動車の大きさによって違います。特に大型トラックなどに十分注意しましょう。交差点に近付くときは、後方の安全を確かめて左折する車に巻き込まれないように注意させましょう。 自動車には、前や後ろ、窓枠に遮られた左側の部分等の運転者から見えない「死角」があります。バックミラーでも、しくみの上で、運転者の左（または右）斜め後ろのものが見えにくくなっています。したがって、直前、直後を走ったりすることは、避けなければならないことや、自動車のすぐ横に一時停止したりすることは非常に危険であることを理解させましょう。 自転車は、自動車の運転者からは見えにくい存在であることを、常に心にとめておかなければなりません。特に、夜間は明るい色の服装にしたり、ライトや尾灯、反射器材を利用して、自動車の運転者から見えるようにしましょう。 自動車は、目で見たり、感じたりするよりも、速く走っていることが多く、常に時速30～60キロメートルで走っているものです。遠くに自動車が見えても、決して安心できないことを理解させましょう。 自動車は、走っているとき急ブレーキをかけても、すぐには止まることができません。自動車が後ろから接近してきたときは、十分注意して走るように指導しましょう。
	高校生	<ul style="list-style-type: none"> 停止するまでには、運転者が危険と感じてブレーキをかけ、ブレーキが効きはじめるまでの間に車が走る距離（空走距離）とブレーキが効きはじめてから停止するまでの距離（制動距離）とをあわせた距離（停止距離）が必要です。 緊急自動車が近付いてきたときは、交差点やその付近では、交差点を避けて道路の左端に寄って一時停止しましょう。それ以外のところでは、道路の左端に寄って進路を譲らなければなりません。しかし、一方通行の道路で左端に寄ると、かえって緊急自動車の通行を妨げるようなときは右端に寄るように指導しましょう。

